

ノロエスティ線

ビンテ・デ・
マイオ耕地

pone

所次取符切定指社會船商阪大
小川　上地　東京館　末廣　旭　大和坊　迫健藏
仲村　秋田　糸二郎　中　山忠太郎
源右衛門　上　地　渠三郎　山　忠太郎
源右衛門　上　地　渠三郎　山　忠太郎

日本旅官

大石内蔵之助 牛井桃水

第二百三十八回

【その様な事は合點の上で、御奉公致したいと、強ての望みに御座ります。四次郎が娘分として、あのおくにを差上げませうが、お使ひなされては下さりませぬか】

【僅かな事を恩に着て、度々の訪音信、眞佐を連れては祇園清水、人形芝居へ誘はれるので、娘はいかう狃れしたしみ、おばさま／＼と、旦暮慕ひ居る娘の事、願うてもない思召ぢやが、萬一難儀を掛けするやうでは】

【そのやうな御配は、御無用になされませ、萬一の事が御座りまして、おくには金子の貯へもあり、私といふものも、及ばずながら手傳ひまして、必ず難儀は致させませぬ】

【何事も承知の上で、参つてく異存は御座らぬ】

【では御承知下されますか、ヤレ／＼夫で安堵ました、おくにも嘸かし喜びませう、幸ひ明日は日柄も宜しう御座ります、夫人といふのでもなければ、媒介立てる難作も入らず、善は急げりませう】

【明日といふては、餘り火急、責めて隣子のきり張りでも致しま上】

【はてさて何のその様な事に及びませう、おくにが參りましてから、何も彼も當人が、好いやうに致します、斯うお話を極めて見れば、少しも早く歸りましておくにに安堵致させませう】

【貝賀彌左衛門の妻となつたおには、真心を籠めて仕へ、殊にお眞佐を慈しんだ。眞佐は、眞佐が誕生、瑞九月一日はお眞佐が出生、瑞左衛門の喜十郎は、茶屋四郎次も】

◇美術出張撮影
寫眞 村田康男

Dr. S. TAKAOKA
MEDICO E OPERADOR
Rua Fagundes, 8—S. Paulo

診察 午後三時より
電話セントラル三〇八〇番

高岡専太郎

診察所 Tel. Cidade, 3722
S. Paulo

日伯歯科醫院
電話セントラル三〇九〇番
村上眞市郎

日伯歯科醫院
電話セントラル三〇九〇番
村上眞市郎